

先取りは得じゃあない

どっしり
じっくり
味わう

人より「早く」
じゃなくていい



あわてず
じっくり噛んで
栄養に

先取り教育は失敗例が多い

人間の進歩や能力の向上を「社会」に合わせて煽られると足元の「能力」を育て損なうという例をたくさん見てきました。

できることなら「先取り」という、あわてて足元をシッカリ踏み固める前に前のめりに行ってしまおうと、せっかく持っている大事な能力を伸ばせずに、空振りのような人生になってしまいます。そういう世間で生きてても「社会」はいいものになりません。

世の中に役立つ人間を作るという「教育」ではだめなのですね。「社会」を本当に人間らしいものにしていくための努力は「足踏みして地固め」の実践からです。

「先行逃げ切り」は結構きつい挑戦だ

余裕のない人生はガツガツと焦って行くような姿です。遅くなくても遅れても「そこから出発」で行けばいいのです。何歳からでもいいからじっくり「地固め」して下さい。そうすれば「先行逃げ切り」の守りの姿勢で生きなくて済みます。

そもそも「人生の勝負所」はいつ来るのでしょうか？あまりに早く勝負かけて息切れしている人をバカにはできませんが、せめて「勝負時はいつ来るのか？」ぐらいの疑問は持つてください。

多読のすすめ・というものもある

「水、穴に満ちて流る」という例えもあります。この話はまたいつか「いのちの満足」ですとすると、「多読」という学習法があるのをご存じですか？

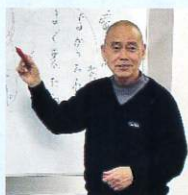
これはとにかくたくさん読むのです。英語でも日本語でも何でもいいのですが、学習の基本力をつける方法です。これが、僕の人生科の「先取りは必ずしも得じゃあない」に通じるのです。何歳からでも有効な生き方に通じます。

実は能力というのは基礎、基本がとても大切なことなのです。そのために「くだけかけ」では「よく見、よく聞く」ということを大切にしているのです。

ウサギとカメの物語のようにカメさんがユックリのようにも、気が付けば先に目的地に着いているという例え話です。たくさん読んで、能力という容れ物を満たすことが大切です。

先日「アースウォーク研究発表会」で、まさにそういう積み重ねの重要性を確認できたのが『子ども新聞』です。

和田重良（山の茂吉）



1948年 小田原市生まれ。
東京教育大学（現筑波大学）卒。
1978年、「くだけかけ会」をはじめ。神奈川県丹沢山中のくだけかけ生活舎において、多くの青少年たちと共同生活を実践してきたことを基盤に、これからの子どもたちの心を豊かに育むための提言を発信し続けている。
中日新聞にコラム、SYD月刊「愛」に連載中。
「両手で生きる」「悩める14歳」など著書多数。